

第二章 つなげる

①コミュニティ・スクール⇔地域学校協働活動

文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課 地域学校協働活動推進室
室長 西川 由香

「繋がることから始まる未来（あした）」

- ・ 10月組織再編により、社会教育と学校教育の垣根を越えて、地域と学校の協働を「地域学習推進課」という一つの課で、一体的に推進。
- ・ 思い描いているのは、学校運営協議会の機能と、地域学校協働活動の取組が、一つのサイクルの中で回り、つながり合い、持続していく姿
- ・ 地域には、様々な世代が暮らし、それぞれの世代の間に、学び合い、つながり合いのニーズが、少なからずある。若い世代は人生の先輩たちから経験を学びたい。子育て世代は、育児や家事の支援がほしい。兄弟の少ない子供たちは、異学年の子供やお兄さんお姉さんたちと遊びたい。シニアは、地域の文化・伝統や自身の経験を若い人たちに伝えたいと思っていたり、地域での居場所を望んでいたりする。
- ・ 全ての世代が、人生のそれぞれのステージを充実できる、そのような地域をつくるための一つの大切なキーワードが、「つながる」である。
- ・ 少子高齢化、経済社会の変化も激しい、生活・価値観も変わってきたなかで、従来のやり方でよいのか今一度考える必要がある。課題目標ビジョンの共有はできているか。
- ・ 協働とは、同じ目的、対等な立場で、協力して共に働くことである。

メッセージ

- 学校教育・家庭教育・社会教育のつながりを一歩前へ
- 学校、家庭、地域が手を携え、協働すれば、学びが一つにつながる
- 参加者同士も繋がって、大きなうねりを起こして欲しい



②教職員⇔地域住民

大石田町立大石田中学校

校長 本多 諭 氏

「教職員と地域をつなげる～子供たちの多様な学びのために～」

- ・ 少子化で地域に子供の姿が見えなくなった、統廃合も進んだ
- ・ 学校運営協議会の中で、委員から「地域で子供のために何かできないか」
- ・ 学校運営協議会委員の方々が、地域の人材を繋いでくれる
- ・ 地域には思いがある、ということに先生たちが気付いた
- ・ 地域とつながり、先生は普段見ることのできない子供の姿を見ることができる
- ・ つながるためには、学びが必要ということ。学びがキーワード

メッセージ

- 子供のたちの学びをもとに、教職員も学び、地域も学ぶ
- つなげるためのポイントは、地域を知り、地域と関わり、価値ある素材を引き出すこと



③学校区⇔学校区

八王子市立松木中学校学校運営協議会
松木中学校区3校合同学校運営協議会
会長 金山 滋美 氏

「小学校と中学校をつなぐ～「地域で子育て」をめざして～」

- ・中学校区でコミュニティ・スクールカレンダー作成し、情報をつなぐ
- ・三校合同学校運営協議会主催の祭りを開催
- ・人を繋ぐのは人
- ・学校長が「開く」こと、これが、学校運営協議会がうまく進むポイント
- ・前学校運営協議会会長の思いを引き継いで、今の自分の活動がある
- ・H31には、市内学校運営協議会会長連絡会も設置される

メッセージ

- つながりは人がつくる・・・たくさんの人のつながり意思を引き出す
- 子供、学校中心の地域を意図的につくる
 - ・保幼小中の連携から様々な世代の結びつきを生む



③学校⇄企業

「戸田市の教育改革『つづける』『つかう』『つなげる』」

戸田市教育委員会 学務課長 武藤 昌博 氏

- ・市民の教育への関心が高く、児童生徒も増加
- ・非認知スキル、21世紀型スキル、汎用型スキルの育成による新たな学びを推進
- ・産官学民との連携では、70を超える企業とつながっている
- ・業務改善と教育改革を一体的に推進

戸田市立新曽小学校 校長 上原 和代 氏

- ・セサミストリートカリキュラムのパイロット校
- ・一人一人の児童が、夢の実現のために何をするべきかを考えるカリキュラム
- ・個人ワーク⇄グループワーク⇄クラスワーク（えんたくんを活用）
- ・教員の指導案作成も議論が活発に

メッセージ

- 外部の専門的知見を取り入れ、未来を生き抜く力を児童生徒に身につけさせる
- 産官学民との連携により、学校を活性化し、教員の意識を変容させる

ポイント

- ・学校は、これまで培ってきた学校教育の良さを継承しながらも、時代に合わせた変化を求められており、地域や子供の状況に応じて、公式に外部とつながる関係作りが必要



④生徒⇔地域住民

岐阜県立吉城高等学校

校長 鈴木 健 氏

「先生と地域がつながる」「高校生と地域で輝く大人がつながる」

- ・小中学校と違い、高校は選んで入るところ、その中で地域とどう繋がるか
- ・そして、高校におけるこの「地域」の捉え方が難しい
- ・「飛騨でどんな子供を育てたいか」をテーマに、キャリア教育コーディネーターを中心に教員と地域住民で研修会を開催、参加者は教員と地域住民が半々ほど。話ができただことが、学校にとっても地域にとっても重要だった
- ・中学校はアクティブラーニング取り入れているのに高校は何もしていない、魅力的な取り組みがない等々各方面から言われたが、これは期待の表れ
- ・地域をフィールドに、課題解決能力を育成する YCK プロジェクトスタート
- ・プロジェクトを内容毎に、総合学習、教科学習、課外活動、ミッションと整理、地域協働本部も設置

メッセージ

- 学校、行政、保護者、企業、地域住民のゴールは必ずしも同じではないが、
- 「子供の成長」を最大公約数の目標として協力することができる



⑤学校の情報⇔地域の情報

山口県下関市王司&清末まちづくり

下関市立清末小学校 教諭 松本 学 氏

「まちのよさを伝えたい ～まちづくりを通してのつながり～」

- ・ご当地教員になりたいと思い、地域の広報担当に
- ・地域のために活動している方がたくさんいることを実感
- ・開催される地域行事に参加しては、その様子を Facebook に投稿していった
- ・地域にとって学校は大きな存在だと分かったが、肝心の学校のことを地域は知らない
- ・地域の方に学校のことを知って欲しいという思い
- ・たくさん失敗もあった、まちの良さを押し売りしていたと気付いた
- ・トレーサビリティから発想、そのプロセス、過程を伝えることで、まちを身近に感じ、良さに気付いてもらえるように

メッセージ

- 「まちは学校、人は先生」 どんな人がいるのか、どんな活動をしているのか
- より多くの方がまちを身近に感じるように

ポイント

- ・FACEBOOK アカウントを地域の方々と共有し、学校のこと、地域のことをそれぞれが投稿できるよう役割分担

